

2月29日に、昨年5月の関支部定期総会以来の「たずねてガッテン」を、こがねだ診療所で開催しました。診療所の医師が、みなさんの質問になんでも答えます、という企画です。小屋名地区の友の会会員さんのお宅を、友の会役員と診療所職員とで開催のお知らせのため訪問をしました。また、診療所の診察室や受付で、案内をお渡しました。

当日は、案内を見て来てくださいました。診療所は研修医が地域医療を研修する場にもなっています。今



「たずねてガッテン」

こがねだ診療所事務長 清水 若菜



種類あるけど違いは?」「朝に血圧の薬を飲み忘れたら、昼に飲んでいいの?」「2年くらい前からすつと立てなくなつた」などがあり、追加の質問にも、水野医師がメインで担当しました。森所長が見守る中、水野医師がメインで担当しました。

質問は、「帯状疱疹ワクチンは2

さった方、こがねだデイサービスの利用者さんの参加もありました。森

今年も新入職員が入職しました

岐阜労働者医療協会専務理事 大橋 正和

4月1日より医師1名、看護師2名、准看護師1名、歯科衛生士1名が新たに入職しました。前年度中に入職した14名の職員も含めて4月2日に法人の新入職員オリエンテーションを開催し、当協会の歴史や理念、取り組みなどを学びました。無差別・平等の医療と介護を実践することで地域のみなさんの健康やくらしに貢献していくことが私たちの最大の使命です。新入職員のみなさんにもその理念が十分伝わったものと思います。新しいみどり病院ともども新入職員の活躍にご期待ください。



これからよろしくお願い致します

みどり病院・地域包括ケア病床について

みどり病院 事務次長 川瀬 誠

少子高齢化に伴い、慢性疾患の患者さんやひとり暮らしの高齢者、老々介護が増えており、地域医療を取り巻く環境など、病院の果たす役割は変化しています。そのため、これまでの病気を治すことを主とした急性期医療に加え、病気とうまくつきあいながら、住み慣れた地域で生活が続けられるようケアするための支援が求められています。その支援として、「地域包括ケア病床」が2014年度の診療報酬改定で新設されました。

地域包括ケア病床は、「急性期治療を経過した方、在宅において療養を行っている方等の受け入れ、並びに患者さんの在宅復帰支援等を行う機能を有し、地域包括ケアシステムを支える」と定義されています。

地域包括ケア病棟・病室の役割



みどり病院では、2020年12月より地域包括ケア病床を開設しました。利用される患者さんは、「急性期の治療が終了し、自宅の準備が整うまでの入院」や「ADL(日常生活動作)の低下で自宅での生活が困難なため施設入所に向けた入院」「介護者の負担軽減を目的とした一時的な入院」など目的は様々です。

「地域包括ケア病床」は、急性期治療後のリハビリや在宅復帰に向けた医療支援を行うための病床です。ご本人、ご家族の思いに寄り添い、社会資源の活用、地域との情報共有を行ない、安心して退院して頂けるように心がけていきます。

すこやかデイサービス紹介

すこやかデイサービス課長 山田 泰子

すこやかデイサービスは2018年5月に旧すこやかデイサービス(現在の通所リハビリ)から引っ越しをして、すこやか有料老人ホームの一階へ新しく移転して6年になります。

一日利用定員45名の大規模のデイサービスで職員は介護職員14名・理学療法士2名・看護師3名・運転手2名・事務1名の総勢22名になります。各職種の職員が専門的な視点でその方それぞれの対応方法や介助方法を検討しながら、安心してご利用できる環境づくりを提供できるように心がけています。また、リハビリ・認知症・重度・レクの4グループ会議を月1回行い、問題提起や介助方法の検討などを行い、統一したケアを提供できるような取り組みを行っております。自立した方から寝たきりの状態になっても長くご利用が続けられるのも、すこやかデイサービスの特徴です。“今日は来てよかった、楽しかった”と言って自宅へ帰ってもらえるように、またご家族にも“今日はデイサービスに行っているから安心です”と言っていただけるように、今後も職員全員で在宅生活をサポートさせていただきます。

昨年はコロナ感染症の流行により一旦中止していた外出レクリエーションを再開しました。春の花見ドライブ・秋の紅葉ドライブはご利用の方に大変好評でした。今年もみんなに楽しんでもらえる行事を考えています。デイサービスを検討されている方は、体験利用も受け付けておりますので、まずは無料体験利用からはじめてみませんか。

